

2021年度第1回阪神競馬特別レース名解説

<第1日>

○ 摂津特別

摂津（せつつ）は、旧国名で畿内5国のひとつ。現在の大阪府北西部と兵庫県南東部にあたる。また、大阪府中北部の市。化学・機械などの工業が盛ん。

○ 飛鳥ステークス

飛鳥（あすか）は、奈良県高市郡明日香村一帯の地域。6世紀末から7世紀にかけて、この地に天皇の宮が多く所在した。この時代を飛鳥時代と呼び、同地域には、当時を偲ぶ飛鳥寺や高松塚古墳などの史跡がある。

○ 洛陽ステークス（L）

洛陽（らくよう）は、平安京の左京の称。右京を長安と称するのに対する。また、京都の異称。名は、後漢など中国の王朝の首都であった洛陽に由来する。

<第2日>

○ こぶし賞

こぶしは、モクレン科の落葉高木。名は、つぼみが握りこぶしに似ていること、果実に握りこぶし状の凹凸があることから付けられた。花言葉は「友愛」「歓迎」。

○ 加古川ステークス

加古川（かこがわ）は、兵庫県中南部を流れ、播磨灘に注ぐ川。延長96km。また、兵庫県南部加古川の下流にある市。同市は、日本有数の靴下の生産地として知られている。

○ 農林水産省賞典京都記念（GⅡ）

本競走は、昭和17年に創設された重賞競走。25年までは3000m～3500m、27年以降は2000m～2200mで実施されていたが、44年から2400mに延伸された。また、毎年春・秋の年2回実施されていたが、59年より年1回となり、平成6年には距離が2200m、負担重量がハンデキャップから別定へと変更された。なお、本年は京都競馬場整備工事に伴い、阪神競馬場において実施される。

<第3日>

○ つばき賞

つばきは、ツバキ科の常緑高木。関東以北では海岸地帯に点在し、ヤブツバキとも呼ばれる。日本では古代より植栽されており、観賞花として品種改良が行われた。花言葉は「完全な愛」「誇り」。

○ 橿原ステークス

橿原（かしはら）は、奈良県中西部の市。中世には、市の中心部が寺内町として発展した。神武天皇の皇居は、畝傍（うねび）橿原宮と呼ばれ、現在の橿原神宮は、その皇居跡と推定される地に建てられた。

○ 京都牝馬ステークス（GⅢ）

本競走は、昭和41年に創設された牝馬限定の重賞競走。当初は2000mで実施されていたが、43年からは1600mに（54年、59年を除く）、平成28年より1400mに短縮され、現在に至る。また、13年に『京都牝馬特別』から『京都牝馬ステークス』へ改称された。なお、本年は京都競馬場整備工事に伴い、阪神競馬場において実施される。

<第4日>

○ 川西特別

川西（かわにし）は、兵庫県の南東部の市。猪名川を隔てて大阪府の池田市と相対する阪神地区の衛星都市である。西は宝塚市、南は伊丹市とそれぞれ接している。果樹栽培や染色・皮革工業が盛ん。

○ 斑鳩ステークス

斑鳩（いかるが）は、奈良県北西部、生駒郡の町。名は、聖徳太子が造営した斑鳩宮跡に由来する。法隆寺・中宮寺・法輪寺などの社寺があり、仏教の中心地である。町内西部の竜田川流域は県立竜田公園として整備され、紅葉の名所として知られている。

○ 大和ステークス

大和（やまと）は、奈良県全域を占める旧国名。五畿内のひとつで、飛鳥京・藤原京・平城京などの都が置かれ、室町時代初期までは寺社が大きな勢力を誇っていた。明治9年に堺県（現在の大阪府堺市）と合併し、20年に奈良県として分離した。また、日本の異称としても用いられる。

<第5日>

○ 松籟ステーキス

松籟（しょうらい）は、松の梢に吹く風の音のこと。松風、松韻とも言う。松は、古くから神の宿り、節操や長寿を象徴する神聖な木として尊ばれている。

○ マーガレットステーキス（L）

マーガレット（Marguerite）は、カナリア諸島原産のキク科の多年草。晩春から夏にかけて、一般に中央が黄色で周囲が白色の花をつける。花言葉は「心に秘めた恋」「貞節」。

○ 仁川ステーキス（L）

仁川（にがわ）は、六甲山系に源を発し、武庫川に注ぐ川。また、阪急電鉄今津線の駅名にもなっており、阪神競馬場の最寄り駅である。

<第6日>

○ 甲南ステーキス

甲南（こうなん）は、六甲山南部の地域。六甲山を背景にした神戸市の山手で、一帯には高級住宅街が広がっている。

○ すみれステーキス（L）

すみれは、スミレ属の多年草。春に花柄を出し、濃紫色の花を横向きに咲かせる。名は、花の形が墨入れに似ていることに由来する。阪神競馬場がある兵庫県宝塚市の市花としても有名。花言葉は「誠実」「小さな愛」。

○ 阪急杯（GⅢ）

本競走は、昭和32年に創設された『宝塚杯』を前身とする重賞競走。創設当初は、2200mで実施されていたが、35年に距離が1800mに短縮され、その際に現在の競走名に改称された。以降、幾度かの距離変更を経て平成18年より1400mで実施されている。なお、第1着馬には同年の高松宮記念への優先出走権が与えられる。

阪急電鉄株式会社は、大阪市北区に本社を置く鉄道会社。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第7日>

○ 小豆島特別

小豆島（しょうどしま）は、高松市の沖合に浮かぶ島。瀬戸内海では淡路島に次いで大きい。日本で初めてオリーブの栽培に成功し、別名「オリーブ・アイランド」とも呼ばれる。小説『二十四の瞳』の作者壺井栄の出身地としても知られている。

○ 播磨ステーキス

播磨（はりま）は、旧国名のひとつ。山陽道に属し、現在の兵庫県南西部にあたる。播州（ばんしゅう）とも呼ばれる。

○ チューリップ賞（GⅡ）（桜花賞トライアル）

本競走は、平成6年にオープン競走より格上げされた重賞競走。30年からGⅡ競走に格付けされている。桜花賞と同じ舞台で実施されることから、同競走を目指す3歳牝馬にとって重要な競走となっている。なお、第3着までの馬には桜花賞への優先出走権が与えられる。

チューリップ（Tulip）は、ユリ科の球根植物。園芸植物としての人気が高く、品種改良によってさまざまな色や形が存在する。茎が出て幅広い葉が数枚つき、4～5月頃に大きい花を1輪咲かせる。花言葉は「永遠の愛情」「愛の告白」。

<第8日>

○ アルメリア賞

アルメリア（Armeria）は、イソマツ科の多年草。花壇や鉢植えなどで栽培する。花の色は桃・白・赤などで、3～4月に小球状の花をつける。名は、ケルト語で「海に近い」という意味で、和名で呼ばれるハマカンザシとともに海浜性植物であることを表している。花言葉は「思いやり」「心づかい」。

○ うずしおステーキス

うずしおは、海水が渦を巻きながら激しく流れる現象。狭い地形で潮の干満の差が大きい場所で発生しやすい。鳴門海峡に発生する「鳴門の渦潮」が有名。

○ 大阪城ステークス（L）

大阪城（おおさかじょう）は、大阪府中央区にある城。豊臣秀吉が天正 11 年（1583）から 3 年をかけて築いたとされる。慶長 20 年（1615）の大坂夏の陣で落城し焼失したが、その後再建され、幕府の直轄地となり城代が置かれた。その後も数度の火災に見舞われたが、昭和 6 年に現在の天守閣が再建された。周辺は大阪城公園として整備され、大阪城ホールや梅林などがある。

<第 9 日>

○ 阪神スプリングジャンプ（J・GⅡ）

本競走は、平成 11 年に創設された障害重賞競走。創設時は 3800m で実施されたが、翌年より 3900m に距離が延伸された。

スプリング（Spring）は、「春」を意味する英語。

○ ゆきやなぎ賞

ゆきやなぎは、バラ科の落葉低木。「雪柳」とも書く。春になると白色五弁の小花が枝上に並んで咲き、枝に雪が積もったように見える。花言葉は「愛嬌」「殊勝」。

○ 但馬ステークス

但馬（たじま）は、山陰道に属する旧国名のひとつ。現在の兵庫県北部にあたる。ブランド和牛である但馬牛の生産地として有名。

○ ポラリスステークス

ポラリス（Polaris）は、こぐま座のアルファ星で北極星。北極星は、地球の自転軸を北極側へと延線した線上付近に位置し、地球上からはほとんど動いていないように見える。そのため、天測航行の際には正確な測定をするための固定点として用いられる。

<第 10 日>

○ 春日特別

春日（かすが）は、奈良市およびその周辺地域。特に、奈良市春日野町にある春日大社の付近を指す。平成 10 年に「古都奈良の文化財」のひとつとして世界遺産に登録された。

○ 伊丹ステークス

伊丹（いたみ）は、兵庫県南東部の市。古くは、伊丹氏の城下町として発展し、江戸時代に入ると、酒造で全国的に知られるようになり、現在は大阪・神戸のベッドタウンとして位置づけられる。また、同市および大阪府豊中市・池田市にまたがる大阪国際空港は伊丹空港とも呼ばれ、関西の空の玄関口となっている。

○ 報知杯フィリーズレビュー（GⅡ）（桜花賞トライアル）

本競走は、昭和 42 年に『阪神 4 歳牝馬特別（報知杯桜花賞トライアル）』の名称で創設された重賞競走。競走名は 2 度の改称を経て、平成 13 年より馬齢表記の変更に伴い現在の名称になった。なお、第 3 着までの馬には桜花賞への優先出走権が与えられる。

スポーツ報知は、報知新聞社より発行されているスポーツ紙。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第 11 日>

○ 淡路特別

淡路（あわじ）は、旧国名のひとつ。現在の兵庫県淡路島を指す。淡路島は、瀬戸内海最大の島。明石海峡大橋で本州と、大鳴門橋で四国とそれぞれ連絡している。「古事記」「日本書紀」によると、日本で最初にできた島とされており、島内には国生み神話に縁のある場所が数多く存在する。

○ 武庫川ステークス

武庫川（むこがわ）は、兵庫県南東部を流れる川。延長約 66km。兵庫県篠山市に源を発し、青野川や羽束川などの多くの支流を集め、下流で逆瀬川、仁川などを併せて大阪湾に注ぐ。また、阪神電鉄武庫川駅は、武庫川に架かる橋梁上にホームがある全国的にも珍しい駅である。

○ 若葉ステークス（L）（皐月賞トライアル）

若葉（わかば）は、芽を出して間もない葉のこと。特に、初夏の木々のみずみずしい葉を言う。なお、第 2 着までの馬には皐月賞への優先出走権が与えられる。

<第12日>

○ 豊中特別

豊中（とよなか）は、大阪府北部の市。同市は高校野球、高校ラグビーなどの発祥地として知られる。また、公共交通機関や幹線道路が整備されており、大阪市近郊の立地条件から、ベッドタウンとして発展した。

○ なにわステークス

なにわは、大阪市付近の古称。現在でも大阪市域を指して用いられ、特に上町台地の北部一帯を指す。仁徳天皇の難波高津宮や孝徳天皇の難波長柄豊碓宮（なにわのながらのとよさきのみや）など、皇居が造営された地として知られる。

また、浪速（なにわ）は大阪市中部の区名。繁華街「新世界」にある通天閣は、大阪のシンボルとして有名。

○ 阪神大賞典（GⅡ）

本競走は、昭和28年に創設された重賞競走。当初は2000mのハンデキャップ戦で実施されていた。31年に負担重量が別定に変更され、その後2度にわたる距離の延伸を経て、49年から現在の3000mとなった。また、62年から実施時期が12月初旬から大幅に繰り上げられ、現在の実施時期となった。なお、第1着馬には同年の天皇賞（春）への優先出走権が与えられる。